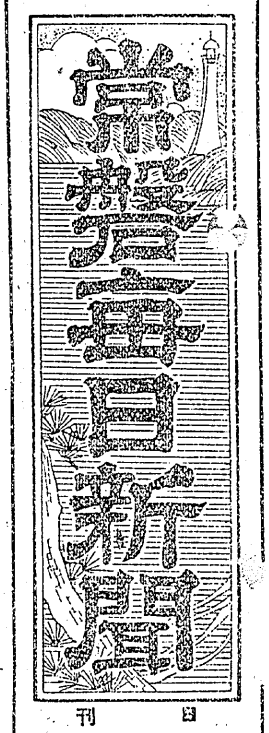
三月五日夕刊



定價一部　一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
發行所　常磐毎日新聞社
東京市麻布區三部平町長瀧町三五
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

餘生限りあり

眞　繼　雲　山

凡そ物には正味と風袋といふものがある、菓子箱が風袋で菓子が正味である、安い菓子箱ほど檜の風袋が高く正味が少ない。

書籍を讀んでも何の得るところのない風袋ばかりの本がある、演説や說教を聞いても何の收獲も無かつたといふのがある、これは風袋演說でアベコベに時間の赤字である。

議員屋が代議士や市會議員に當選したい一心から金切聲を絞つて怒鳴つてゐるのを手を叩いて喜んでゐる聽衆は、代議政治の國賓であつて、議員屋よりいへば無くてならぬ踏み臺である

聽衆からいへば時間の寄附行爲、時間は生命なりとの觀念から計量すれば生命の寄附行爲、大いなる犧牲である、この意味に於て棄權率の多きは大衆の奉仕多からざるを示し、農村に棄權率の少なきは好人物の豊かなるを證す。

顧つて私の過去半生涯を顧みるとき、さて〳〵風袋の生活、時間つぶしの無意味な生活の餘りにも多かつたことを痛感する。

この頃漸くにして餘生の限りあるを知り、つとめて風袋のない正味の生活を送りたいと期してゐるが、それでも兎もすれば檜の高い草子折のやうな風袋な生活が續く。

しかし世上には風袋ばかりの生活をしてゐる人もあるさうして貴重な一生を風袋ばかりで過ごしてゐるのを見受けるが、斯くの如きを空々寂々と名づける、しかしそれも禪味があつて面白いかも知れぬ、たゞ私は出來るだけ正味の生活正味の人生でありたいと祈つてゐるのである。

その風袋といひ正味といふのは何を基準にするかといへば、別に位階人爵を計量するのではない、又それを求むべき柄でもない、肩書は無へとも眞實に生くる道はおのづからある、私はたゞ自ら觀じて生き甲斐のあると感じ得る生活を望むのである。

私たちは今日一日、この月、昨一年、さては我が半生を通觀して幾ばくか正味幾ばくか風袋と顧みつゝ前進する必要がある。

高月會句抄《四》（二月例會）

たこ

糸なかはかすんで凧のうなりかな　天仙
魔の唸り巨木に凧の髏かな　耕影
大凧の空一はいのうなりかな　良亭
夕空やうなりを立てゝ凧一つ　鐘梅
臺地より凧を見下すの和かな　紅果
さわがしう兒等集りて凧あくる　曉美
切れ凧や波の山越えて川越えて　一夢

藝苑

雜詠

佐藤行雄

あこがれの都を去りて故郷へ歸りて寂し古し面影
月明の脚でさゝやく二人連れ語る想ひは川の流れに
幼子が雪戀しさに白雲に拜み額づく月の夜かな
神詣で疲れし足を引きすりてたどる社に疲れ去り逝く

専門
産婦人科
花柳病科
◎入院應需
井坂醫院
平町田町　電話五五九番

花環　花籠　蓮華
▼新らしく安い
造花は
▼靈柩自動車御用
平町新川町
橋本屋
電話一六三番

生徒募集
◇卒業は一ケ年
◇申込は四月八日迄
◇入學は無試驗
平南町
平産婆看護婦學校へ
校長　清野キヨ
電話三〇七番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

ムウチラ温灸器
專賣特許
特約代理部
卸治療部
販賣部
定價表
金拾參圓　藥及特効モグサ五週間分付上製桐箱入一揃
金拾圓　藥及特効モグサ五週間分付上製桐箱入一揃（說明書呈）
福島縣平町五ノ廿八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
産婆　關口悅子

醫學博士廿名推奬
胃腸病　婦人病　其他の慢性諸症
肥り度い人の福音　熱くなく痕つかず無煙式　誰にも出來る理想的家庭治療器

お子樣方入學進級の御用意
學生帽子・鞄
ルセドンラ
總革製
七十八錢
九十錢
一圓卅錢
四圓廿錢
ヤルツ
電一四〇

募集第一日に寄附四百圓

諸橋、山崎、柏原家から平分會意氣込む

既報平在郷軍人分會では義勇飛行機福島號建造の寄附金募集は愈々四日より着手したが時節柄募集成績よく開始初々釜屋諸橋久太郎氏より二百圓山崎與三郎氏より百五十圓柏原幸次郎氏より五十圓計四百圓に達し豫想外の好成績で相當金額に達する見込みであるが分團では寄附者への御禮として來る十一日午後一時と六時の二回に渡り聚樂館に於いて東京商科大學講師陸軍少將伊藤政之助氏を招聘時局大講演會を催す事に決定したが入場者は福島號建造金寄附者に限るとの事である

畜牛の檢査

石城郡の日割

石城郡内の畜牛結核檢査を來る五月五日から三十日までに亘り執行するが檢査前後各滿一ヶ月間受檢査畜牛の移動を禁止される檢査日割左の如し

四倉五月五六日、植田十五六日、上遠野十六七日湯本十八九日、内郷二十二十一日、好間二十二三日、草野同六七日、高久同八九日、豊間同九十日小名濱同十一二日、久來同十三四日、平二四日二十八日、上小川二十九三十日

救護委員打合せ會

十三日に開催

既報本年度より實施された救護法に據る救護調査員は過般發表となり石城郡下には平町外八町村に四十二名の救護調査員が設けられたので來る十三日午前九時より平第三小學校に全郡下の調査員が集合第一回の救護法事務の打合せ會を開催する事になつた

養蠶飼育講習

小川常福寺で

石城郡下小川養蠶實行組合の桑園改良並に養蠶飼育普及を計る爲め去る三日午後一時より同村常福寺に縣桑園改良技手加藤貞氏を講師として講演會を行つた

磐中卒業生氏名

式は七日に擧行

磐中卅二回卒業式は七日午前十時より擧行の旨昨報したが卒業生氏名左の如し（◎は優等生○は五ヶ年精勤者）

阿部德三郎　阿部忠義　阿部恒男　阿部省三　阿部秀良　有坂正道　青木武　青木金吾　朝妻仲治　愛川一美　會田伊佐雄　秋山常衛　阿久津經之　◎今宮正平　伊藤國之助　伊藤仁　飯島憘義　石倉道朗　石井正則　魚住貞雄　江尻清　江尻隆平　大平正美　大平道美　大平正彦　大友春美　大友能一　大和田藤太郎　大竹清美　太田八束　大内一郎　大島留春　狩谷敏行　○叶田正良　○片寄登喜雄　片寄正道　川瀬達雄　鴨秀明　金成增文　○菅野正市　景山文藏　岸正利　木村晴雄　◎木村五郎　○◎木内佐門　木田源一郎　熊谷勝正　小林忠司　小林一義　小湊善一　小泉公明　○小磯利隆　小堺惇一　小松周三　佐藤善四郎　佐藤一男　佐藤一佐藤正雄　佐藤唯雄　齊藤鐘一郎　齊藤文男　齊藤豊　齊藤正武　酒井武夫　酒井藤平　西丸芳郎　○里見政雄　笹川子之太郎　坂本富三雄　篠塚榮一　篠原欽司　志賀勝　志賀滿義　柴野春記　柴田連二　四家又衛　○◎下山田佐彌　重田景助　鈴木源三郎　○◎鈴木新夫　鈴木一夫　○鈴木末二　鈴木繁雄　鈴木正　鈴木正夫　鈴木伍郎　鈴木正一　鈴木敏之　○須田正　須田吉一　菅原昌人　關内義方　橋七郎　高橋清吉　高橋金治　高萩新治郎　高岡丈夫　○田久清　田仲久安郎　丹野清　丹野千吉　瀧内集　瀧彌二郎　竹本慎一郎　竹本研一　谷口保　武田義雄　丹大正　反保忠司　富澤巖　富澤初一　富岡三津男　富安貢　◎長瀨直衛　○中村一夫　中村三朗　中村良輔　中根幸雄　中川義一　中野大三　中務　中山辰雄　長澤秀治郎　西山武治　西村正夫　新妻晴夫　布谷敏雄　○根本常夫　根本久太郎　野口一　○長谷川清美　箱崎義晴　比佐六平　比佐敬二　蛭田秀實　日渡正英　樋口徹　弘中清　藤森忠秋　星憲司　松本桂　松本公輔　松本繁兒　松崎正一　○◎松野久作　松原政一　馬目益男　○水津彥雄　水野清　水野惣平　御代武久　椋木三郎　椋木四郎　○門傳正　門馬一男　矢島力　山崎辰夫　山田忠　桝葉勳夫　矢吹吉平　山内道夫　吉田儀男　◎吉田榮延　吉田信雄　吉田博雅　○吉田泉彌　吉野保　渡邊祐基　○渡邊行雄　渡邊正清　渡邊助光　○渡邊常太郎　涌井豊　若松光一郎　藥谷武平　○和田好美　猪狩義雄　猪狩隆　猪狩武男　遠藤正美　遠藤親夫　遠藤武惠　原猪佐男　小野昌孝　小野二郎　小野好太郎　○小野武　小野一雄　小野信一　小宅正男　小名川年雄　小川正二　岡田健治　岡部雄美　岡本敏一　岡崎光一　（以上五十音順）

赤土部長來平

あす小名濱へ

既報赤土内務郎長は本日午後一時初巡視の爲め來平平署土木監督所その他を視察午後六時伏見町長、伊藤平署長、並に井上、野崎、萩原の各縣議發起の住吉屋本店に開いた官民合同の觀近會に臨み一泊六日小名濱に向ふ筈

木炭役員會

品評會打合せ

濱三郡木炭同業組合では既報の如く組合創立拾週記念木炭品評會開催に關し本月十日午前十時より同事務所に委員會を開く事になつた

小川校學藝會

石城郡小川村小學校及び下小川分校にては來る七日午前十時より兩校合同の兒童學藝會を下小川分校に於いて行ふと

平町人事

回出生

長橋町五〇　遠藤忠四郎氏二男忠

募る二勇士遺族の弔慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ。實に振古未曾有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す。古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり。

今や同胞國を擧げて戰に赴かんとす誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國軍の威武を宣揚する誠に三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり。

名將曰く『吾が皇國も三勇士ありて亡びす』と眞に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり。

然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族發展の尊き犧牲者なり。

吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を餞け以て聊か勇士の靈を慰んとす。

愛國の士奮つて賛せられんことを

主唱　阿部政右衛門

後援　常磐毎日新聞社

但し

一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます

二、右弔慰金は平驛前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ

三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名　―第五回分―

須田甚太郎　篠原忠次　小松正治　味岡子之松　野澤トノ　吉田正雄　清水ユウ　海野誠平　皆川元　根本長一　根本辰雄　佐藤篤二　堤明　深谷常松　高田三果　根本幸吉　色川勝三郎　佐藤牛松　武田清次郎　佐藤富義　草野留吉　今田義惠

義賊を氣取る流し專門

昨夜平驛の捕物

昨夜八時頃平驛待合室ベンチでルンペン風の男に密柑を與へて居る職人風の男を巡廻中の平署員が不審と睨み唯何すると突然逃走せんとしたので直に取押へ取調ると同人は双葉郡熊町夫澤生れ住所不定丸添榮吉（二二）で昨年十月頃より東京で失業郷里へ引上ける途中東京府下千葉茨城等で自轉車衣類等空巣專門の窃盗を十餘件行つた旨自白したが目下餘罪取調中である

城山登口の道路工事

月末迄に竣工

平町役場土木課では豫てより搔槌小路地内城山踏切より女學校登口に通づる鐵道線路上の道路が峡悪なので各學校の通學生其他の通行に危險を感じて來たので同道路の幅員擴張工事を五日から着工したが三十一日竣工の豫定である

十丈の斷崖から トロと心中

一名慘死他は重傷

小名濱築港捨石用割栗石運搬に從事中の石城郡磐崎村大字藤原日雇業高野興（四〇）及渡邊德太郎（二三）の兩名は三日午後三時半頃山出し用軌道トロに石材を滿載し同村笠石區内山林溪谷に架せられた橋上にさしかゝつた際俄然大音響と共に橋板が墜落前記二名はトロ諸共十丈餘の斷崖より墜落頭部右手その他に何れも重傷を負ひ人事不省に陥つたので直に入山病院に收容應急手當を加へたるも高野は遂に同八時絶命渡邊はせい命危篤である

生産米と消費量

穀檢所の調査

平穀物檢査所管内で各町村に於ける産米の生産高と米の需用高を比較調査したのに依ると米の輸入するのでは流石商業郡市だけに平町が最高であ[illegible]が平町の稻田は僅か百二町歩是の年産額は平年作に於いて二千百卅七石の收獲に過ぎず人口三万に近い總[illegible]の腹を滿すには三万二百廿石を要するので毎年二万八千八十三石の米を他より買入れて居る譯であるが反對に[illegible]下一の農業村たる草野村では稻田五百十七町歩を有し年産額一万八百石其を全村人口四千二百八十名に供給しても尚六千九十二石餘の剩餘米を賣り出してゐる譯である

珍らしく減つた 平署の犯罪

選擧取締の手薄

平署に於いて去月二月中に取扱つた犯罪統計を見ると總件數四十三件、檢擧人員三十五名と云ふ激減を示したが是は選擧期間中の事として繁雜な取締のためこの方面に手が延びなかつた結果で犯罪は矢張り窃盗の廿五件、檢擧人員十四名で次は詐欺の三件、二名賭博の一件六名等で縣下有數の平署としては是迄來にない減收振であつた

山崎伍長の飯野村葬

十一日に執行

既報ハルピン附近の戰鬪で名譽の戰死を遂げた飯野村出身山崎一好伍長の遺骨は八日若松より到着出身地飯野村に於いては一日十盛大な村葬を行ふ事になつたので當日は平町各團体代表者が多數會葬する事になつた

赤井の山火事

五町歩燒失

石城郡赤井村の赤井嶽山中不動瀧附近の留守居小屋より四日午後六時頃發火附近山林五町歩餘を燒拂つたので赤井藥師僧連總出にて大事に至らず消止めたが損害原因目下調査中である

欲しい馬市場

郡南町村の要望

石城地方の馬は從來放任主義だつた爲他地方のものに比し非常な見劣りあり山間部地方の馬市に於ける價格も數段の安値を示してゐたのでこれが改良指導に就て産馬畜産組合では茲二三年來全力をあげでゐた結果昨秋來メキ〳〵聲價を高めつゝあるので昨今多數の町村に馬市開催の議が高潮して來た、殊に植田町は郡南の中心地として相當歴史あり且交通の便多いのでこの際是非開設する要ありと希望する者が極めて多くなつたのでまづ牛馬商組合では八日の總會で決議し町當局と共力その筋に運動を起す事となつたが尚他町村にもこの種の現象は續々發する模樣である

内郷の賭博

石城郡内郷村大字宮字町田居住無職石井久太郎（四五）及び同字手島朝吉の兩が久太郎方で三日午後六時頃より現金賭博を開帳中駐在所員に踏込まれて檢擧された

赤井藥師

あす賑ふ大祭

石城郡のれい場赤井嶽藥師尊では六日例祭を執行するが本年は出征軍人のために勇健威猛大祈願を修する筈であるから縣下は元より遠近各府縣から多數の登山參拜があり大賑ひを呈するであらう

漁業施設調査

農林省漁業課景山技手は漁業共同施設調査のため十日本縣商工水産課で打合せの上同省が奬勵金を交附して居る石城郡江名濱の貯藏庫、小名濱の蓄養、豊間村の霧笛信號等を視察歸京する事になつたと

明日のラヂオ

仙台放送局

天氣豫報　今晩は南西の風　曇明日は北西の風に變り晴

今晩の部

▼後六、〇〇（子供の時間）「戸別訪問イソップ物語」徳川夢聲
▼後七、三〇　講演「母の日に就て」島津治子
▼後八、〇〇　獨唱と管絃樂（新交響樂團練習所より中繼）
▼後八、四〇　義太夫「一谷嫩軍記」竹本東廣
▼後九、三〇（奉天より）「滿洲旅行に就て」奉天案内所主任　西田龜萬夫
▼後九、四〇　全國ニュース氣豫通報

明日の部

▼前九、一〇　榮養料理「黄味卷き」榮養研究所
▼前九、三〇（子供の時間）「妹脊山女庭訓」竹本南部太夫外
▼後六、〇〇（子供の時間）お話「松川大將」齊藤養治
▼後六、三〇　講演　宮城縣知事三邊長治
▼後七、三〇　講演「産業組合の改善に就て」法學博士矢作榮藏
▼後八、〇〇　三曲「三津山」尺八荒木古童　三絃福田喜久子　箏川田登宇子
▼後八、三〇　落語「お文さま」談洲樓燕枝
▼後九、〇〇　浮世節「吹き寄せ」立花家橘之助
▼後九、三〇（奉天より）支那音樂
▼後六、〇〇（合奏）アルモニアマンドリン合奏（獨奏）荒谷道雄（ギター伴奏）荒谷明朗
▼前一〇、〇〇　時事講座「支那の將來」大谷光瑞
▼後〇、〇〇　謠曲講座「謠の道しるべ」（九）實演　櫻間金太郎　解説　池内信嘉
▼後〇、五〇　獨唱とヴァイオリン獨奏　岩谷廣子　兎呆龜夫
▼後一、三〇　浪花節「大岡政談天一坊」浪花亭妓
▼後二、一五　映畫物語「愛國者」須田貞明
▼後三、〇〇　人形淨瑠璃

平職業紹介所報告

□求人の部

△賣子　卅才前後　尋卒　賣上の二割給す（平町某豆腐店）
△風呂番　四十才迄　月五圓位（平町某風呂屋）
△女中　廿才前後　月五圓位（双葉郡富岡驛前）

□求職の部

△事務員　廿三才　中卒　給料面談（内郷村某）
△採炭夫　廿九才　尋卒　給料面談（好間村某）
△家大工　廿四才　高卒　給料面談（内郷村某）

一册の代金で御希望通りな五册の雜誌が自由に讀める川崎巡回文庫　電六三〇番（申込次第規則書進呈）

小說

破綻 (4)

（百六十九）

渡邊默禪作
布施平八郎畫

【禁轉載】

『何でもない男なら、わざ〳〵別莊に引張込んで、お泊りならば泊らんせと飯盛女郎式の行爲をする必要はないでせう、男を泊なくちやお研究のできない藝術といふものは何處にあるんだ夜の藝術……性の研究……エヘ……それが淸い親みかね、無垢の交はりかねいゝ奥さん、あの北川といふ男が別莊に來て泊つて朝旨くボンヤリした顏をして歸つて行くところを見かけた證人は二人も三人もあるんですぜ、飛んでもない女としての節操もあつたもんだねアハヽヽヽ』

もう十々滅を刺された郁子は拾鉢に自暴的の聲をふり立てゝ

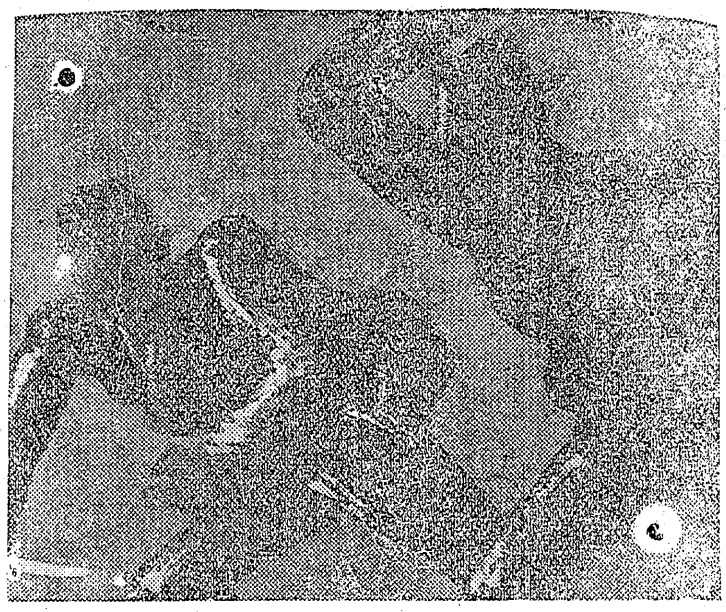
『大きなお世話よ、私がどんなことを爲ようと、それは私の自由意思から出たことなんだから、お前たちの干涉は受けあしないわ』

『干涉は受けなくつたつて世間には眼がある、批評といふものがある、そんな破倫不道德なことをなすつたら、社會の制裁で貴女は忽ちに葬られて了ふ、精神的に滅びて了ふそれでもよいと思ひますか』

『構ひあしないわ、十文字の家に居るうちなら兎も角今ぢやあ獨立不羈の一人者なんだから、痛くも痒くも何ともありやあしないわよ世間の非難なんかびく〳〵してゐたら生きていかれあしないぢやないか、ヘンどうしたいふだい、馬鹿〳〵しい』

いなせに小腕をまくりあげて虛勢を張つて見せた。

『アハヽヽ・其處までやけくそになり行止まりだ、ぢや奥さん、一切のことを世間に發表してもいゝですかい』



屹度となつて

『私には有力な新聞記者が三人もついてゐますぞ』

『勝手におしよ、新聞ぐらゐなんだい』

怖い目を浴せかけて、くるりと後を見せた郁子はついつと五六歩行きかけた、高野は追蒐けてその右の手をぎゆつと掴んだ。

『こ、こんなに言つてもまた俺を……俺を踏つけにする精神なんだな、お、俺の要求に應じないんだな』

裂けるやうな眼熱して戰く聲音、力の限りかたく握つた匕首から電流のやうな強い刺戟が傳はつた、郁子は總身を縮こめて

『厭！もう恁うなつたら意地よ』

『よしッ畜生ッ』

『お放しッ』

振切つた郁子の體はいきなり突飛ばされてよろ〳〵と砂地に倒れた、起揚がつた瞬間にちらりと月の薄明りに映つた光りは高野の右手にかざした匕首であつた

『あれい、ひ、人殺しゥ』

郁子は氣もそゞろ悲鳴をあげた。

踞るやうに逃げようとする背後から高野の左手が落ちて來て無圖と襟にかゝた曳戻されてひよろ〳〵になつた。

『こらッ、何を爲るんだ』

突然大きな聲が響いた、砂丘の蔭から野獸のやうに跳り出した男は白刃をふりあげた高野の手をプーンと洋杖でなぐつた。

白刃は跳し飛んでばたりと高野の足下に落ちた。

『だれか來て……』

郁子はよろばひながら、きう〳〵した叫びをあげて鳥帽子岩の方へ駈けた。

時は春!!!
◎新入學生の通學に……
◎ゼヒ必要な時計を……
營業種目
時計　眼鏡
指輪　電燈
其他貴金屬
白寶堂時計店
平町新町川(諸橋呉服店向へ)

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

科病柳花・科兒小・科內
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番

◎◎◎お茶の値下斷行
本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ
煎茶四十目袋入　十錢より
香りのよい家庭德用別焙　五十錢まで
ほうじ茶四十目袋入　十五錢
第二號十錢

配達
風味　平町三丁目
銘茶
大勝園
本店
鈴木義志
電話三九六番
迅速

磐城セメント會社特約店
久谷屋商店
磐城平町五丁目　電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

大塚の學生靴!!!
耐久新製品
編上靴　六・〇〇
半靴　五・〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……
大塚支店製靴部
電話七七番

三井の商品切手
平町三丁目　電話三八二番